

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成 28 年 5 月 19 日 (2016.5.19)

【公表番号】特表 2015-517440 (P2015-517440A)
 【公表日】平成 27 年 6 月 22 日 (2015.6.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2015-040
 【出願番号】特願 2015-511607 (P2015-511607)
 【国際特許分類】

B 6 7 D 1/08 (2006.01)

F 2 5 C 5/00 (2006.01)

【F I】

B 6 7 D 1/08 Z

F 2 5 C 5/00 3 0 3 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 28 年 3 月 24 日 (2016.3.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

氷ディスペンサに関連して氷を扱うための方法であって、
 氷ディスペンサを用意する工程を備え、
 前記氷ディスペンサは、

氷を保管するための氷容器であって、該氷容器から導くための氷シュートを有する氷容器と、

前記氷容器内に配置される攪拌機バーアセンブリと、前記攪拌機バーアセンブリに連結されるとともに該攪拌機バーアセンブリを回転させるように構成された攪拌機モータと、を有する攪拌機アセンブリと、

前記氷容器内に配置されるとともに前記氷シュートで終端するオーガと、前記オーガに連結されるとともに該オーガを回転させるように構成されたオーガモータと、を有するオーガアセンブリと

を備え、

前記氷を扱うための方法は、さらに、

前記攪拌機モータの起動を選択的に制御するコントローラを用意する工程と、

大量の氷を前記氷容器に供給する工程と、

前記オーガモータを起動して、前記オーガを回転させることによって、前記大量の氷の一部分を前記氷容器から分注し、それによって、前記氷シュートを介して前記大量の氷の前記一部分を押す工程と

を備え、

前記コントローラは、

前記オーガモータの起動の後に累積される、前記オーガモータの動作期間を決定し、

前記オーガモータの前記累積された動作期間がオーガ閾値を超えているか否かを決定し、

前記オーガモータの前記累積された動作期間が前記オーガ閾値を超えていると前記コントローラによって決定された場合に、前記攪拌機モータを起動する

氷を扱うための方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記コントローラは、
前記攪拌機モータの起動の後に経過した時間を決定し、
前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が攪拌機閾値を超えているか否かを決定し、
前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が前記攪拌機閾値を超えていると前記コントローラによって決定された場合に、前記攪拌機モータを起動する
氷を扱うための方法。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記オーガ閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための方法。

【請求項 5】

請求項 2 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記コントローラは、
前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が前記攪拌機閾値を超えていると前記コントローラによって決定されることと、
前記オーガモータの前記累積された動作期間が前記オーガ閾値を超えていると前記コントローラによって決定されることと
からなる群から選択されるタイミングイベントが最初に生じた場合に、前記攪拌機モータを起動する
氷を扱うための方法。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための方法。

【請求項 7】

請求項 5 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記オーガ閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための方法。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための方法。

【請求項 9】

請求項 5 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記氷ディスペンサは、さらに、氷容器インサートを備え、
前記氷容器インサートの第 1 の部分は、前記攪拌機バーアセンブリの下部分の周りに実質的に一致するように構成され、
前記氷容器インサートの第 2 の部分は、前記オーガの下部分の周りに実質的に一致するように構成された
氷を扱うための方法。

【請求項 10】

請求項 9 に記載の氷を扱うための方法であって、
前記氷容器インサートは、前記氷容器を上部氷区画と下部氷区画とに実質的に分割し、

前記氷容器インサートの前記第１の部分は、前記上部氷区画から前記下部氷区画に大量の水を通過させることができるように構成された開口を備える

氷を扱うための方法。

【請求項１１】

請求項１０に記載の氷を扱うための方法であって、

前記氷容器インサートの前記第１の部分は、複数の前記開口を備える

氷を扱うための方法。

【請求項１２】

氷を扱うための氷ディスペンサであって、

氷を保管するための氷容器であって、該氷容器から導くための氷シュートを有する氷容器と、

前記氷容器内に配置される攪拌機バーアセンブリと、前記攪拌機バーアセンブリに連結されるとともに該攪拌機バーアセンブリを回転させるように構成された攪拌機モータと、を有する攪拌機アセンブリと、

前記氷容器内に配置されるとともに前記氷シュートで終端するオーガと、前記オーガに連結されるとともに該オーガを回転させるように構成されたオーガモータと、を有するオーガアセンブリと、

前記攪拌機アセンブリの動作を制御するためのコントローラと

を備え、

前記コントローラは、

前記オーガモータの起動の後に累積される、前記オーガモータの動作期間を決定し、

前記オーガモータの前記累積された動作期間がオーガ閾値を超えているか否かを決定し、

前記オーガモータの前記累積された動作期間が前記オーガ閾値を超えていると決定した場合に、前記攪拌機モータを起動する

氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項１３】

請求項１２に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、

前記コントローラは、

前記攪拌機モータの起動の後に経過した時間を決定し、

前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が攪拌機閾値を超えているか否かを決定し、

前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が前記攪拌機閾値を超えていると決定した場合に、前記攪拌機モータを起動する

氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項１４】

請求項１３に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、

前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である

氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項１５】

請求項１２に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、

前記オーガ閾値は、ユーザによって設定可能である

氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項１６】

請求項１３に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、

前記コントローラは、

前記攪拌機モータの起動の後に経過した前記時間が前記攪拌機閾値を超えていると前記コントローラによって決定されることと、

前記オーガモータの前記累積された動作期間が前記オーガ閾値を超えていると前記コントローラによって決定されることと

からなる群から選択されるタイミングイベントが最初に生じた場合に、前記攪拌機モータを起動する

氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 17】

請求項 16 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 18】

請求項 16 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記オーガ閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 19】

請求項 18 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記攪拌機閾値は、ユーザによって設定可能である
氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 20】

請求項 16 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記氷ディスペンサは、さらに、氷容器インサートを備え、
前記氷容器インサートの第1の部分は、前記攪拌機バーアセンブリの下部分の周りに実質的に一致するように構成され、
前記氷容器インサートの第2の部分は、前記オーガの下部分の周りに実質的に一致するように構成された
氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 21】

請求項 20 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記氷容器インサートは、前記氷容器を上部氷区画と下部氷区画とに実質的に分割し、
前記氷容器インサートの前記第1の部分は、前記上部氷区画から前記下部氷区画に大量の水を通過させることができるように構成された開口を備える
氷を扱うための氷ディスペンサ。

【請求項 22】

請求項 21 に記載の氷を扱うための氷ディスペンサであって、
前記氷容器インサートの前記第1の部分は、複数の前記開口を備える
氷を扱うための氷ディスペンサ。